



『ツナガリの家(右)』と『ここらぼの家(左)』。家の形やボリュームは違うが素材や色合いを統一し、全体として一体感を出している。共有の車庫兼薪棚は中庭の目隠しの役割を兼ねている。今はまだ建物だけだが、夏に向けて庭づくりをする予定。



全体をイメージするため製作したスタディー模型。建物の形や窓のバランスをはじめ、敷地全体でのボリュームや、屋根の高さなどの立体的な把握をするのに便利。

P2) ワンルーム空間の中に、ダイニングコーナー、薪ストーブコーナー、ソファコーナーを配置させ、暮らしのシーンに合わせて利用できるスペース。ダイニングには丸テーブルを配置し、友人などと楽しい時間を共有できる空間をつくった。

『ツナガリの家』と『ここらぼの家』

今回の計画は『ツナガリの家』のお施主さんであるTさんとの出会いから始まりました。数年前から事務所の近くにコロボの家づくりを具体的に表現した提案住宅をつくりたいと考えていました。考えれば考えるほど前には進まず、土地探しについても進んでいませんでした。そんな時以前から交流のあったTさんの家づくりが具体化し、偶然事務所から少し離れた広い土地が候補にあがりました。敷地が大きく自由に区画出来るという話を聞き、それならばという事で、Tさんの家の隣に展示場を建てても良いですか？と私が切り出しました。Tさんも突然の事で驚いたとは思いますが、ご夫婦共に私の提案を喜んでくれ受け入れてくれました。最終的にはその土地の話は流れてしまったのですが、その後の土

地探しも2軒が建つ敷地を探すようになっていきました。ある時Tさんをお願いしている不動産屋さんから一件の情報が届きました。事務所から車で3分程ととても近い場所だったので、夕方ではありましたが情報をいただいた後すぐにその土地を見に行きました。Tさんの奥さんも駆けつけてくれ、一目敷地を見た瞬間お互いニヤリ：こいいね。金額も敷地条件も具体的な事は何もわからない情報でしたが、とても気持ちのよい敷地で心が踊った事を今でも鮮明に覚えています。その後不動産屋さんを通じてひとつひとつの問題をクリアし、無事購入する事ができました。折角2軒で建てるのならば単にお隣さん同士ではもったいない：という事で、2軒の関わり合い方を模索していきました。様々な意見を重ね、最終的にお互いの中庭をひとつに合わせ、共有で楽しめる場をつくる事で意見が一致し、具体的なプランへと進んでいきました。

つくるココロと暮らすココロ

暮らし体験と交流の場
島田市／『ここらぼの家』
文・写真／コロボ 山崎健治

コロボ10周年のメイン企画として昨年からは進めてきた『ここらぼの家』が、昨年11月に完成となりました。当社のテーマである「職人と共につくる」を暮らしの中に表現し、素材と技術を活かしつつ懐かしさ（伝統）と新しさ（チャレンジ）の混在する木の家を提案しています。大工の手刻みによる木組み架構を中心に、各職人たちとの協働でつくり上げてきたオリジナル納まりやアイテム、また新構法による高耐震性能や今後求められてくる省エネ性能についても積極的に取り入れています。今回は完成したばかりの『ここらぼの家』について、こだわりや工夫と合わせて、私たちの「思い」をお伝えしていきたいと思います。



左) ドロップインコンロと呼ばれる魚焼き無しの4口ガスコンロと、コンロ近くで煙を排気するグリーンハイキ。どちらも見慣れない機種だがつくりがシンプルで根強い人気のロングセラー商品。

左) キッチンにはシンク台とガスコンロ台が分かれたコの字型。シンクとコンロに分かれて広い作業スペースが確保出来、2人で作業する時もとても便利。



上) 縦に伸びた空間に、スリムな縦型の薪ストーブを設置。天井を低く抑えた空間に合わせてハイバックの落ち着いた造り付けのソファを設けた。あえて異なるスペースを隣り合わせる事でメリハリのある空間ができた。

右) 伝兵衛堂さんが選んだオープン付きクッキングストーブ。薪を焚くと庫内は250～300℃まで上昇する。気軽にパンを温めたりグラタンなどが楽しめ、気負わず使う事が出来て便利。



落とし込みの壁板を30cm程ずらして製作した本棚と引出し収納のあるソファ家具。天井をあえて低く設定し、ゆっくりと読書を楽しめるコーナーをつくった。



アイアンを使って軽やかな階段を製作し、空いた部分にカウンターを設けてスタディースペースに。奥まった雰囲気落ち着き、ちょっとした書物をするのにちょうど良い。



広間空間をキッチン上部から眺める。ワンルーム空間の中に木組みフレームに合わせたそれぞれのコーナーをつくった。各スペースは4.5帖程と小さな空間だが、お互いが関係し合い広さ以上の開放感を感じさせてくれる。

コンパクトにつくって大きく暮らす

『ここらぼの家』は延床面積31坪程のコンパクトな木の家です。敷地形状との関係もありましたが、基本設計時、なるべく小さな住まいを建てようと考えました。家づくりのきっかけの多くは子育てにあると言われ、子供の成長に合わせてアパートではなく一軒家に暮らしたいと望む方が多いと思います。せっかく新築をするのなら、広いリビングやキッチン、客間の和室や書斎も欲しい…子供室も人数に合わせた数を確保してあげたいと考えます。しかし、実際に暮らしてみると以外と思ったようにはいかず、子供は部屋でなくダイニングテーブルで宿題をしたり、客間は使われずそのまま放置、お父さんの書斎にあつては物置に…なんて声もよく耳にします。家が大きくなると当然建築コストも大きくなり、イメージしていた素材や仕上げ、設備へのこだわりも諦める事にもなりかねません。また、広さと合わせて部屋の配置や繋がりもとても大切です。住まいは子供の成長によって常にその暮らし方が変化していきます。小さな子供との暮らし方、中学生や高校生になった時、そして独り立ちをした後などを考えてみると、ずっと同じ暮らし方とはいきません。そして、いずれやってくる老後の事も考えておかないと。広さ

や各部屋の繋がりなど、実際に暮らす家族によって様々だとは思いますが、『ここらぼの家』では子育ての終わった世代をイメージして、コンパクトな空間の中で大きく豊かに暮らす事をテーマとして提案しています。夫婦2人が快適に暮らせるために必要な部屋や設備を1階部分に集約し、2階には独立した子供たちが帰省した時に過ごす6帖のゲストルームとくつろぎの畳スペースを設けました。1階部分は22坪とコンパクトな大きさですが、日当たりの良い場所に8帖の寝室を設け、バリアフリーを意識した広めのトイレを近くに配置しました。吹き抜けを取り入れた広間空間には、キッチンとダイニング、薪ストーブコーナーを配置し、少し奥まったスペースに本棚とセツトで製作したソファークーナーを配置しました。それぞれの空間はコンパクトなスペースですが、視線の抜けや吹き抜けのボリュームを取り入れて圧迫感の無い空間になっています。また、広間南面には大きな開口部を設置し、中庭への眺めや採光、通風を確保し、ガラス屋根を設けたデッキスペースなどの空間も重なる開放的なスペースをつくっています。

コンパクトにまとめるために真っ先に考えるのが水周りや収納スペース、物干し場などの広さだと思いますが、これらのスペースを少なくしたり小さくすると結局リビングなどに洗濯物などがあふれ出し、毎日ス

仕様内容

外部仕上	家族構成	家族2人(イメージ)
	敷地面積	262.59㎡
	建築面積	120.78㎡
	延べ床面積	104.34㎡
外部仕上	構法	JPウォール構法(Jパネル30落とし込み)
	屋根	ガルバリウム鋼板 タテハゼ葺き
	外壁	杉赤本実板目透し縦貼(柿渋コートG塗布)
	外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、桧(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
内部仕上	天井仕上	杉板本実張り 厚30mm 青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
	壁	Jパネル30現し、漆喰塗、 青森ヒバFJ本実板張り
	床	栗本実乱張 厚15mm
	内部建具	オリジナル木製建具 葛布ガラス入框戸
設備	キッチン	ステンレスヘアライン天板オリジナルキッチン
	洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板オリジナル洗面化粧台
	浴室	オリジナル浴室 300角サーモタイル貼 青森ヒバ貼
	設計者	山崎健治
竣工	施工	有限会社ころ木造建築研究所
	竣工	平成28年11月



コノ字型に囲まれたデッキスペース。ガラス戸を開けると広間と玄関ホールが一体となり、半屋外的なスペースに。屋根には垂木を利用してガラス屋根を製作した。



便器と手洗い器を設置したトイレは広めの2帖の大きさ。広さと合わせカウンターを手摺の代わりに設置。壁は大谷石、鏡の額はステンレス叩き仕上げ。



コロバ定番の青森ヒバとサーモタイルの木の浴室。香りが良くとても落ち着く空間だと好評。

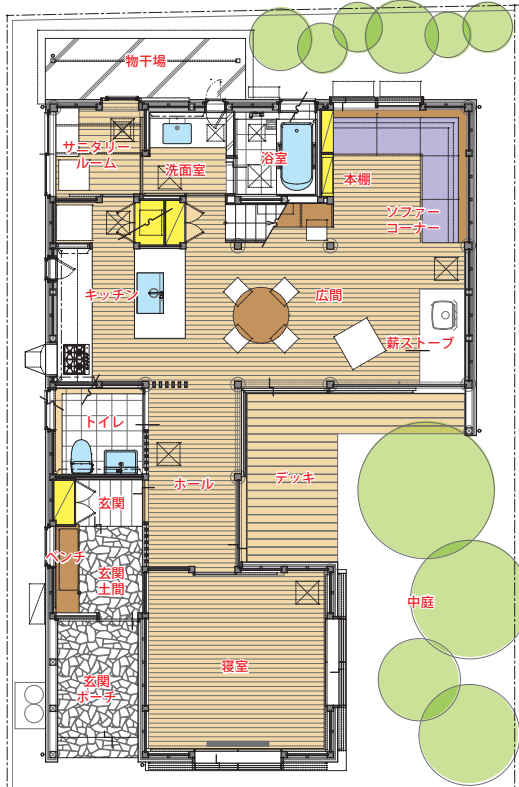


青森ヒバで仕上げた洗面脱衣室。隣に洗濯機のあるサニタリールームを設け、スッキリしたスペースに。

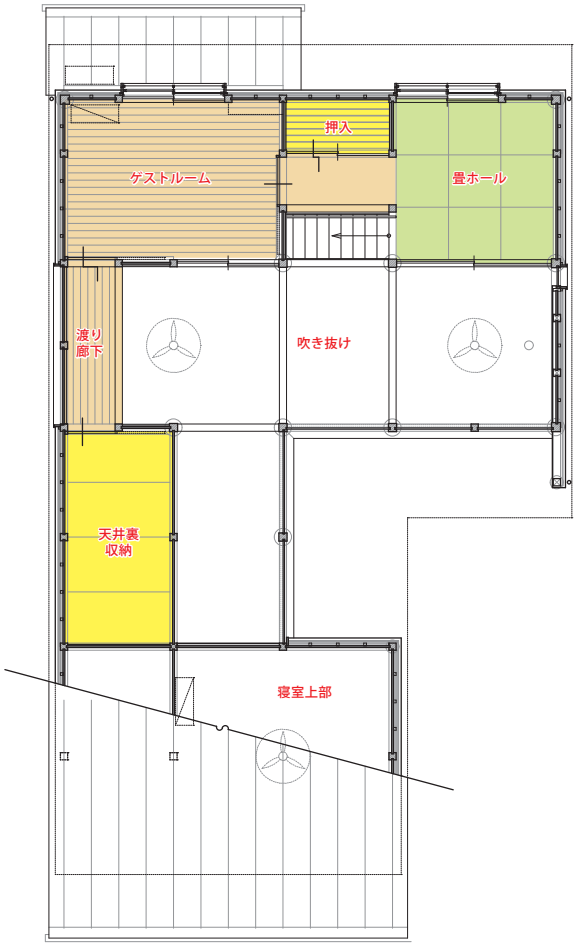


玄関スペースにはナラ一枚板を使ったベンチと鬼胡桃の8角柱を設置。どちらもバリアフリーを意識して設置したが、素材やデザインを考え、空間に合ったつくりとしている。床には諏訪鉄平石の乱張りを採用。石屋の技術も継承していきたいと願い、あえて難しい仕上げでお願いした。

トレスを感じる生活になってしまう事もあります。『こころばの家』では、キッチンを中心とした水周りへの動線や室内干しの出来るユーティリティールームを設置し、また、パントリーや掃除道具専用の収納スペース、大型の小屋裏収納を設ける事で、毎日の生活ストレスを少しでも軽減し、快適に暮らしていくための提案をしています。納戸や物入れなどの収納場所を確保し、あとは暮らしながら使っていくので適当に棚板など…と考える方も多いですが、玄関収納やキッチン、掃除道具などは単に収納しておくだけでなく毎日出し入れをして使う場所なので、何をどのように収納したら使いやすいか？ また、物によっては通風やコンセントなどを考え、暮らしに合った提案をしています。



1F平面図



2F平面図



建前後の広間写真。柱や梁の構造体の中にJパネルが挟み込まれ、見た目にも安心した構造体が出来上がった。刻みや建前の作業は大変だが、Jパネルの板がそのまま仕上げ材となるので逆に効率的な構法だと考えている。



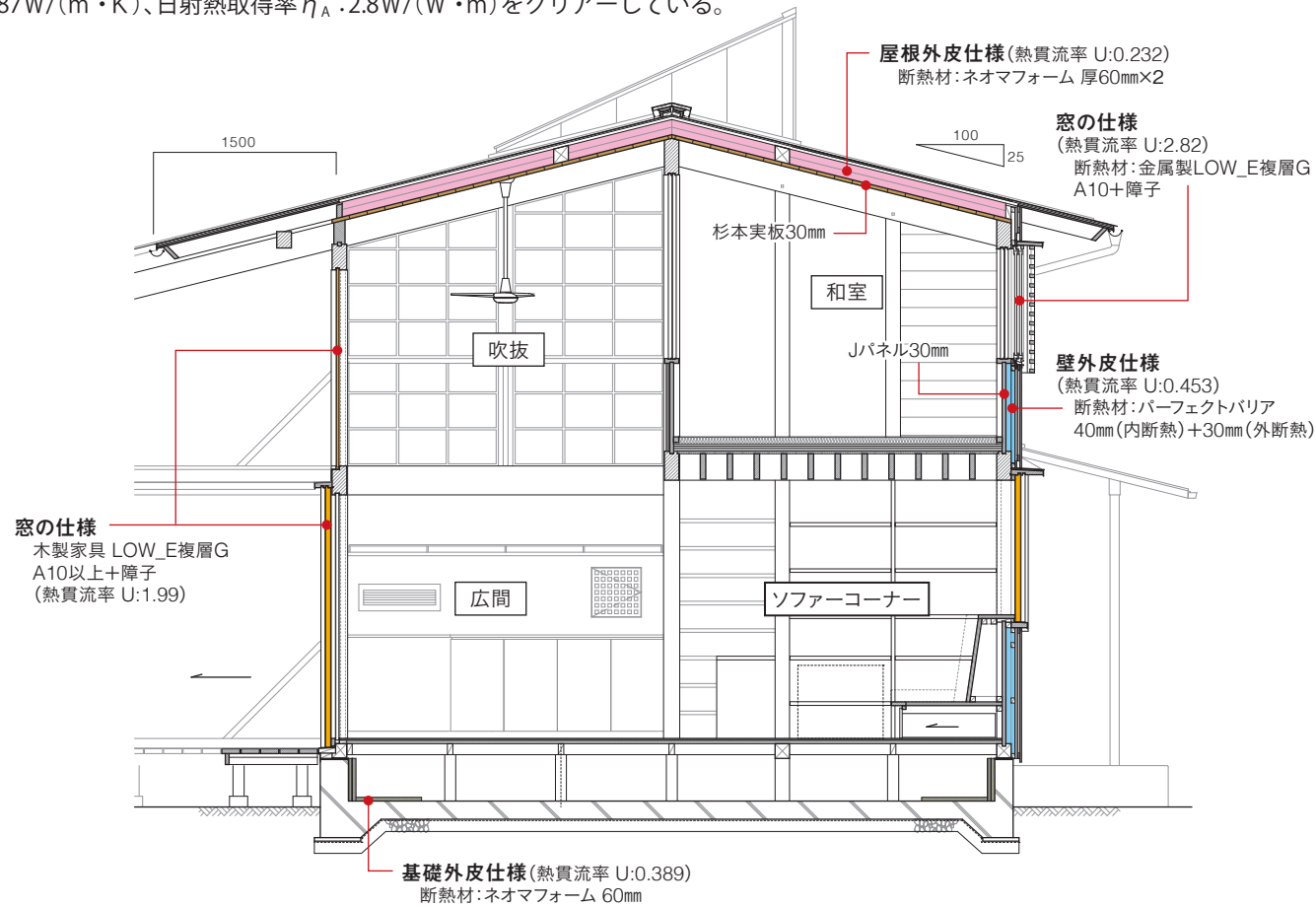
建前時に柱と柱の間にJパネルを落とし込んでいく。落とし込んだJパネルがそのまま部屋の仕上げとなるのが特徴。

屋根の断熱材として採用したネオマフォーム[®]。60mmを2重に入れ、夏場の日射熱を防いでいる。



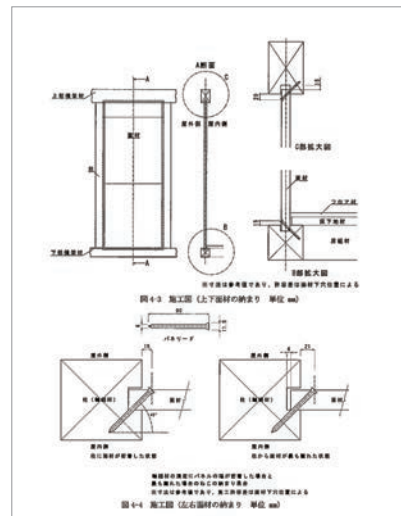
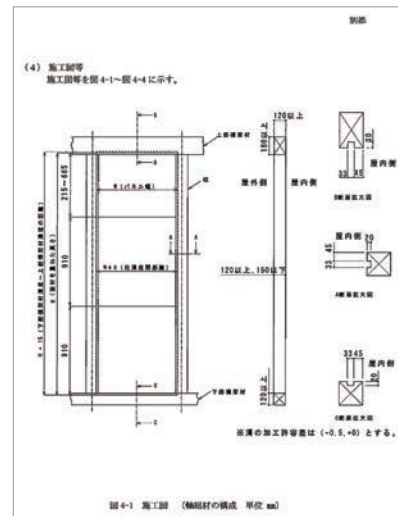
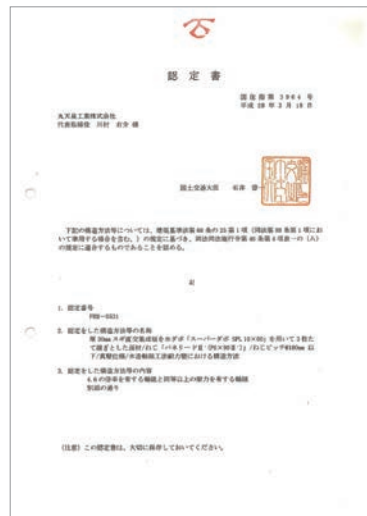
『こころぼの家』の外皮性能

2020年度から義務化が予定されている外皮性能基準をクリアするため、平成25年省エネルギー基準に対応した仕様とし、外皮平均熱貫流率 U_A ：0.87W/($m^2 \cdot K$)、日射熱取得率 η_A ：2.8W/($W \cdot m^2$)をクリアしている。



『こころぼの家』の構法

杉三層クロスパネル(Jパネル)を利用したJPウォール構法は、昨年3月に大臣認定を取得し、4.6倍の壁倍率を持つ剛性の高い壁構法となっている。従来の板倉構法同様に柱や梁にシャクリを設け、30mmのJパネルを落とし込みパネリードと呼ばれる高強度のビスで固定されている。施工性もよくJパネルがそのまま仕上げ材になる点も魅力で、構造だけでなく断熱や仕上げにも一役かった構法となっている。



新構法(JPウォール構法)と新外皮性能へのチャレンジ

プランがまとまり具体的な実施設計に移る頃、偶然にもある出会いがありました。その頃現在藤枝市に建築している木の保育園の設計も行っており、技術的な打合せで東京の設計事務所に行った際、隣のテーブルで話をしている方がいました。その方はJパネルを製造販売している丸天星工業さんで、Jパネルを使った新構法JPウォール構法)について話をされていました。その時点ではまだ認定が下りてはいませんが、話が、新構法にとても自信を持ち、熱心に話をしていました。日頃板倉構法での家づくりをしている我々ですが、今回展示場をつくるにあたりひとつ大きな問題がありました。それは2020年度から義務化が予定されている外皮性能基準。一定以上の断熱性能の確保や窓の日射取得率の軽減が義務化され、基準を満たさない建物は建築する事が出来なくなるといふ法律です。板倉構法の家は断熱材だけに頼らず木の蓄熱性を活かした構法なので、我々の暮らす地域においては十分な性能だと考えています。が、法律となると無視するわけにはいきません。これからの提案としては外すことのできない性能という事で、板倉構法の壁の中にどうやって確保していくかについて考えていました。板倉構法は壁の中に30mmの

杉板を落とし込み、その裏側に24mmの縦木摺板を取り付けるため断熱材を充填するスペースが極端に少ない構法です。外断熱構法を取り入れていけば可能ですが、従来の構法に加えていくのでは手間もコストもただの足し算になってしまいます。そんな時出会ったJパネルの新構法は、30mmのJパネル一枚で耐力を確保出来るという構法。しかも壁倍率4.6倍という高倍率の壁をつくる事が出来ます。壁倍率が高くなればなるほど柱の引抜き力が大きくなり負担も増えてしましますが、壁の配置や柱脚金物の選定を注意深く行い、丁寧に設計していく事で問題をクリアしていこうと考えました。板倉構法に比べて壁の中の板厚が薄くなる分断熱材のスペースが増えます。40mmの断熱材を壁の中に充填し、30mmの断熱材を外断熱として施工する事で基準をクリアする壁をつくる事が出来ました。新構法の採用は私たちにとって大きな決断でしたが、新しい基準に向けての実験としては丁度良い機会だったと思います。Jパネルは板倉構法同様なるべく室内に現しとし、杉板の優しい風合いを感じる仕上がりとなり、一枚のパネルは耐力壁、断熱材、仕上げ材の3つの役割をもった壁材となりました。今回の仕様は今後の仕様選定の参考とし、施工性やコストなどと合わせて2020年に向けてさらに研究していきたいと考えています。



『こころぼの家』は、当社の提案する木の家を具現化し、構造や仕上げ、設備や家具など、今までの経験の蓄積と新しい提案の入り混じる木の家です。見学会やハウスメーカーなどの展示場では見学するだけに留まり、実際に空間を体で感じたり、キッチンやお風呂などを使うといった体験が出来ないと思います。『こころぼの家』は「木の家暮らし体験会」と題して、四季を通じて木の家を感じていただける企画を行っています。冬の朝日や薪ストーブの暖かさ、キッチンの使い勝手や木のお風呂の心地よさなど、見るのと体験するのでは考え方も違ってきます。自分たちの暮らしに合ったサイズや動線、心地良いと感じる明るさや暖かさなどを肌で感じていただける場として活用していきたいと思っています。

また『こころぼの家』は、様々な方々の交流の場として今まで以上に楽しい企画を考えていきたいと思っています。昨年行った「冬の暮らし展」では、冬の衣食住をテーマに、設置店さんの協力をいただきながらこだわりのアイテムの展示販売や、体を温めてくれるおいしい食事、アロマを使った心の温かさなども感じていただけるイベントになりました。次回は「夏の支度展」も企画。便利なものだけに頼らず「楽しく涼しく夏を乗り切る」をテーマに衣食住からの視点でご紹介していきたいと思っています。

『こころぼの家』では、利用するみなさんのアイデアも募集しています。テーマに沿ったお料理教室や友人知人などを招いて行う個人展、お子さんと一緒にママ友会やおやじ会など、木の家の空間や雰囲気を活かし、



昨年山崎の自宅で行った「薪ストーブとコーヒーを楽しむ会」。今後はこころぼの家で様々なイベントと企画していきたい。



楽しい企画をたててひと時を過ごしていただきたいと思っています。ご希望の方は遠慮なくお問い合わせください。コラボスタッフがお手伝いをしながら企画を盛り上げていきたいと思っています。

スタートしたばかりの『こころぼの家』ですが、単に展示場としての利用だけでなく、家づくりにおける体験の場であったり、木の家を通じて知り合った方々や地域の方々の交流の場でありたいと思います。みなさんと一緒にこの場を育て、味わいのある場所にしていきたいと思っています。

kokolab Gallery



『こころぼの家』では、昨年秋から毎月様々な展示やイベントを行っています。コラボ通信設置店さんや日頃お世話になっている木の家のづくり手の方々などの協力をいただき、座編みワークショップや薪ストーブ講座、こだわりの品の販売会や発酵食の食事会などを行いました。木の暖かさや優しさをはじめ、開放的な木組みの空間の中で心地良い雰囲気感じていただき、思い出に残るひと時を過ごしていただきたいと思います。今後もたくさんの方々にご利用いただける“みんなの家”として楽しい企画をたて、木の空間での時間を過ごしていただきたいと思います。

手作りの看板を建てて「冬の暮らし展」のイベントを行った。外構は植栽と合わせて夏までには完成させたい。

冬の暮らし展



コラボ通信設置店さん協力で「冬の暮らし展」を開催。衣食住をテーマの楽しく美味しいイベントに。

座編みワークショップ



HWFさん主催の座編みワークショップ。みなさんオシャレなスツールが出来上がった。

ランチ会(発酵食)



madoiさんの発酵食ランチ会。味だけでなく目も楽しませてくれ、体も元気になるのが嬉しい。

コラボOBさんの会



コラボで建築をしてくれた方々だけでなく目も楽しませてくれたmadoiさんの美味しい発酵食ランチ。

出会いを育てる交流の場

伝統とチャレンジの混在する木の家をコンセプトとした『こころぼの家』は、単にモデルハウスとしての役割だけでなく、様々な人と人の交流の場としてたくさんの方々に利用していただきたいと考えています。私たちに設計と建築を任せてくれたお施主さん達をはじめ、コラボ通信を通して応援してくれている設置店や読者のみなさん、私たちを支えてくれている職人さんや業者さん、そしていつもあたたかい目で見守ってくれている地域の方々など、家づくりを通してたくさんの方々との出会いや協力をいただいていると感じています。家づくりは単に設計や建築だけが目的ではなく、そこから生まれる様々な出会いも大切な宝物だと考えています。『こころぼの家』を通して出会いを大切に育て、コラボとのお付き合いだけでなく、お施主さん同士や職人さん、地域の方との交流も積極的に行っていききたいと思います。

まだまだ未完成の木の家ですが、どのように成長していけるか？ みなさんも参加しながら私たちと一緒に楽しんでください。楽しい企画やイベントを行いつつ、暮らしにまつわる様々な事柄についてみなさんと一緒に考えていく場にしていききたいと思います。